

船のお仕事

Ferry Sunflower Works



このコーナーでは、「フェリーさんふらわあ」で働く人達を取り上げる。普段会うことのないスタッフや、フェリー内の仕事場など取材を通じて、フェリー運航の核心部分にふれていきたい。題して「船のお仕事」、第一回目は、機関士と甲板手の仕事現場である。

機関長・下岡博文さん(中央)
二等機関士・中野辰哉さん(左)
甲板手・石川益寛さん(右)

運航中は計器と、数値との格闘。でも、本音をいうと熱中症にかからぬ体調づくりかもしれません

機

関室はフェリーの心臓部。ここが正常に機能しなければ運航ができません。「百分のミリの単位の仕事をしています。ミスをしたくない、それにつきましますね」と話すのは、二等機関士の中野辰哉さん。フェリーは、4日に二回燃料の補給をし、二往復

舵と舵の見張り役。二隻のフェリーに航海士が三人、甲板手が六人乗っており、ここに運航の指示を出す船長が二人就く。

船と船が衝突しないか、島などとおつからないか、はたまた障害物はないかなど、レーダーと双眼鏡で、時には目視して確認し、スムーズに運航できるように進めていくのである。「志布志航路のように外洋(太平洋)を通る時は、そんなに障害物はありませんが、別府・大分航路のように瀬戸内海を通る時は、かなり神経を使います。漁船が多いですし、小さな船にも絶対に気がつかなければなりませんので」。石川さんの話では、夜でも定置網はライトをつけているからわかるが、小さな漁船は時折り無灯火で走っているケースもあるのでわかりにくいそう。「漁船のブイを探すのが「苦勞ですね」と言う。瀬戸内の狭い所だけは船長の仕事だそうで、明石海峡と備讃海峡、来島海峡、そして出入港は船長が行うようだ。それ以外、航海士がどう避けるかを判断し、甲板手が舵を切ることが多い。瀬戸内航路に限っては、小島や漁船も多いためにもう一人甲板手が加わり、運航操作を行っている。

「運航中は船内だけではなく、時にはブリッジにも出て仕事をしています。4時間おきに交代するのですが、流石に神経の使う仕事なのでくたびれます」と本音をちらり。船といえば、素人目には船長一人が運航操作

分エネルギーを持たせる。彼ら機関士は、朝、入港すると昼までは整備作業に追われ、休憩を挟んで出航1時間半前にはスタンバイにかかる日課を送っている。

当然、運航中が機関士の本番だ。安全運航ができるよう、エンジンはもとより、計器とのにらみ合いが続くのだ。「出港すれば機関室にて各機器の運転状態を確認します。船長から気象に関する連絡があり、瀬戸内海はそれ程影響がない時でも外洋(太平洋)では波の高い日もあり、酷い時には5〜7mもの波が襲うこともあるんですよ」と機関長の下岡博文さん。ベテランらしく、落ち着いた仕事ぶり、この人達がいるからこそ、無事に目的地に着くのだと縁の下の働きぶりに感心することしきり。「時化^{しげ}した時は出力に注意。オーバーロードにならぬよう計算しながら走らせています」と話す。

出港すれば、出力計を中心に見て操作する。中野さん曰く「常に出力85%を維持できるように整備しておくのが仕事」で、計器画面をにらみ、数値をいかに維持できるのかの戦いがこの場では繰り広げられているのだ。本船は最大34200馬力で、通常は29000馬力で走っている。これが時化してきたら負荷がかかってくる。29200馬力を超えたら出力を下げるのだそう。「14600ps(馬力)で85%と考えてもらえばいいです。負荷指示計は50mmが上

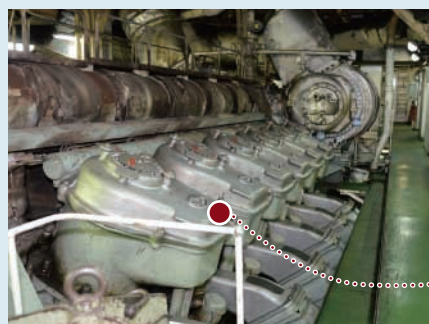
をしているように思いがちだが、さにあらず。石川さんのような甲板手が色々な所で活躍しながら安全を期している。なくてはならない大事な役割である。



エンジン(機関)制御盤



／さんふらわあの／
安全運航を支える心臓部



V型12気筒エンジン



限で、常用出力の85%を制限しているんですよ」と下岡機関長が教えてくれた。

蛇足ながら等機関士になるまでは14〜15年のキャリアを要するらしい。商船大学や商船高専、水産高校に在学している時に、すでに機関士を目指そうと決め、それに必要な勉強をしていくようだ。なので途中の配置転換はほばない。「機関士として大変なことは？」と質問を投げてみた。すると、下岡機関長は「夏場の暑さ」と意外な答え。でも考えれば、機関室は常に暑く、夏には45〜47℃に達する。「水分補給しながら熱中症にならぬように気をつけています」とは、まさに本音の回答であろう。

瀬戸内海は、漁船も多く、運航に気を使います

甲

甲板を務める石川益寛さんは、出港前にはトラックを誘導させ、船に乗せる。大型から順に行い、まずはトレーラーを積み作業を。そしてトラック、乗用車の順に誘導していく。

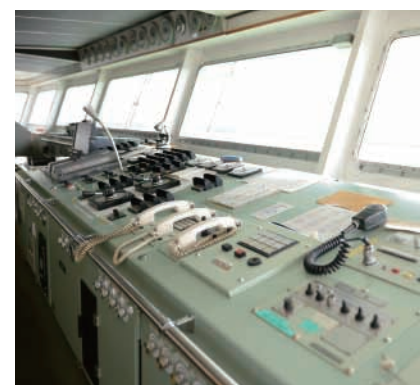
出港すると、すぐさま最上階の船橋(ブリッジ)に移動。ここでは航海士二人、甲板手二人の割りあてで船を動かしていくのだ。石川さんの任務は船が無事航海できるように操



操舵装置



風向風速計



エンジンコンソール